

石狩市の地産地消における 福祉事業所利用者（障がい者）への就労支援

村 田 まり子（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

根 本 亜矢子（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

青 木 萌（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

小 林 真 子（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

菊 地 和 美（藤女子大学 人間生活学部 食物栄養学科）

石狩市では、消費者の食の安全・安心や健康への関心の高まりにより、“地産地消の推進”が図られている。平成24年度の本学のゼミ活動において、石狩産小麦を用いた商品「いしかりベーグル」の開発及び加工販売を行うことにより、地域への貢献の可能性を示すことができた。その後の「いしかりベーグル」の発展・継続について勘案していたところ、福祉事業サムリブより加工販売引継の要請があった。石狩市では障がい者就労支援の取り組みが行われているが、地域の大学生が、直接福祉事業所利用者に製造技術を支援した例はみられない。利用者が技術を身につけ自己の確立に寄与できることは有意義であり、本研究では、「いしかりベーグル」のレシピ譲渡とともに、利用者の製造技術獲得への支援をすることを目的とした。その結果、石狩産小麦を用いたベーグルのレシピ譲渡・利用者の製造技術獲得ができたことで地産地消活動の拡大に貢献することが可能となった。

キーワード：地産地消・就労支援・いしかりベーグル

1. 背景

(1) 石狩市における地産地消と障がい者の雇用

恵まれた自然に囲まれ、新鮮で安全な食材の宝庫である石狩市では、この地域ならではの「食」に力を注いでおり、農業総合支援センターとの連携により消費者にアピールできるような新たな特産品の開発を行っている。具体的には、新港地域が有する流通加工と、地元食材を活かした新商品の開発や、加工、販売方法を開拓し、1次産業と2次、3次産業が連携し、6次産業化を進めることで、地域の活性化と同時に経済の伸展を図っている¹⁾。また、地域のもを地域で消費する“地産地消”はこれまでも施策の一つに位置付けて推進しており、石狩市の学校給食における地場農産物の使用率(重量ベース)が、平成18年度の38.6%から平成22年度に45.5%に上昇したことや、JA いしかり地物市場とれのさと(以下とれのさと)の“地産地消”をテーマにしたイベントにおいて、入場者数および売

上の上昇などが、“地産地消”に対する関心の高まりを裏付けている²⁾。さらに平成24年には、とれのさとにおいて、JA北石狩女性部厚田支所農業加工販売グループによる『しその想い』、市内の農家女性グループであるおやふる工房による『塩麴』、そして藤女子大学のゼミ活動において石狩産小麦「春よ恋」を使用した『いしかりベーグル』の加工販売など、いくつかの市民グループが“地産地消”に関する独自の取り組みを行っており、地域の農水産物に対する理解が高いことが窺える。その関心や理解をさらに深め、石狩農業を支える応援団を増やしていくことが大切である³⁾とされている。一方、石狩市における、障がい^{*1}福祉の分野では、障がい者が安心して地域生活を営むことができる支援体制づくりや就労・雇用などについて、さらなる推進が求められている³⁾。また厚生労働省では「障害者自立支援法」を「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」としている⁴⁾。これらは、法に基づく日常生活・社会生活の

支援が、共生社会を実現するため、社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われるための法律である。

石狩市障がい者福祉計画の策定にあたり、障がい福祉サービスの利用者に対し、「今後石狩市に望むこと」について石狩市がアンケート調査を行った結果、最も多かったのが障がい者の働く場の確保(49.7%)であった。また、その他に「近くで進学、就職できる環境を」、「障がい者の就労施設をつくってほしい」、「雇用の充実」、「障がい者が健常者と同様の地域生活が送れる様に」などという意見が見られた³⁾。このような結果を受け、計画の実現に向けた方策の1つとして、「就労支援体制の整備」が挙げられている。ここでは、障がい者が自立した生活を送るために、一般就労から福祉的就労まで多様な就労機会の確保と雇用の促進に努めている。主な施策として、就労継続支援事業所の利用促進、自主製品を販売・PR するために福祉ショップの設置促進、求人に対する情報提供の周知、インターンシップの実施要請、在宅ワーク等の推進などの計13項目が策定されており、重要課題として積極的に推進している。

(2) 指定障害福祉サービス事業所サムリブ高岡

石狩市の障がい福祉施設は、居宅介護・生活介護・グループホーム・ケアホーム・就労継続支援A型およ

びB型・地域活動支援センターなど17種類であり65の施設がある。NPO 法人サムリブは、平成25年4月にNPO 法人の認可、さらに同年7月に障害者総合支援法(旧自立支援法)に基づく指定を受け、指定障害福祉サービス事業所サムリブ高岡(以下サムリブ)として運営を行っている。事業内容としては、就労継続支援B型事業(定員10名)と生活介護事業(定員10名)の多機能型で運営しており、現在前者10名、後者5名の計15名が通所している。「サムリブ」という名称にはノルウェー語で"samliv"＝協働生活(一緒に働いて暮らす。共同して、生活する)という思いが込められている⁵⁾。図1に当該施設の暮らしの目標・事業目標⁶⁾を示す。

サムリブでの作業は、農業生産とその加工・販売、手工芸品などの生産を柱としており、その内容は、①卵磨き→石狩市八幡町高岡の農場であるノーザン・ノーサン^{*2}から委託されている鶏卵「イコロラン」の「磨き」・「計量」・「パック詰め」作業および販売、②畑作業→近隣農家の野菜のハウス栽培および収穫作業、③豆の選別→はるきちオーガニックファーム^{*3}で収穫した豆の選別(冬季限定)である。これらの作業と並行して、石狩市6次産業化推進事業として、④地域の主要作物であるミニトマトを使用したピューレ作り、そして、本研究の対象である⑥平成26年4月加工販売予定の石狩産小麦「春よ恋」を使用した「いしかりベーグル」の製造練習などがある。

私たちの暮らしの目標

サムリブ高岡では「支援する」側と「支援される」側の違いは問題になりません。それぞれが持つ力を出し合って支え合うことが「共働し共同する」ことを意味するからです。しかしサムリブ高岡はたしかに障がい者の生活と労働を支援する事業所です。だから私たちは、次のことを日々の暮らしの目標に立てています。

1. 障がい者と支援者が共働します
2. 障がい者を甘やかしたりしません
3. だけど障がい者が主役です
4. 支援者の自由な発想で支援します

私たちの事業目標

1. 農業、農産物の加工やその販売を中心に、さまざまな手工芸品の創作活動などを織り交ぜながら、地域で生活出来る基盤をつくります。
2. 住居の整備をおこない、全てのヴィレジャー(「住民」の意で、サムリブの利用者とスタッフの全員を言います)がこの地で暮らしを立てる事が出来るように進めます。
3. …そして10年後…私たちの夢はぶどう栽培とワイナリーの経営…です。

貧乏は辛い。しかし、精神的な貧困はもっと辛い。

私たちと一緒に寛容で豊かな地域社会づくりに挑戦してみないかい？

図1 暮らしの目標・事業目標

~10:00	来所
10:00~	利用者全員が集まり、ミーティングを行う。(自分の体調・気分等に合わせて当日行う作業を自ら決定する)
10:30~	午前の部 作業開始
12:15~	昼食、休憩
13:00~	午後の部 作業開始
16:30~	ミーティングを行う。その日行った作業について一人一人発表する。
17:00~	帰宅

図2 サムリブの1日のスケジュール

サムリブはイギリスの「キャンプヒル」というコミュニティを目指している。これは障がい者が健常者と助け合いながら共に暮らし、各自の能力に合わせてできる仕事を、生活の一部として行なっている「障がい者のための共同体」である。このようにサムリブでも当該施設利用者（以下利用者）本人が、担当する作業を体調・気分等に合わせて自ら決定し主体的に活動している。図2にサムリブの1日のスケジュールを示した。

2. 研究目的

石狩市では、消費者の食の安全・安心や健康への関心の高まりにより、“地産地消”の動きがこれまでになく拡がり、“地産地消フェスタ”の開催やいしかり地産地消の店認証制度の創設、とれのさとのオープンなどにより“地産地消の推進”が図られている。平成24年度の藤女子大学のゼミ活動において、石狩産小麦を用いた商品「いしかりベーグル」の開発及び加工販売を行うことにより、地域への貢献の可能性を示すことができた⁷⁾。今後、「いしかりベーグル」をどのように発展させ、さらに継続させていく方法を提案していたところ、サムリブより加工販売引継の要請があった。

サムリブは平成25年4月より認可を受けた事業所であり、近隣の農家や養鶏場の支援を受け利用者らがその場で就労している。このように地域では障がい者就労支援の取り組みが行われているが、地域の大学生が、直接福祉事業所利用者に製造技術を支援した例はみられない。また、様々な障がい者福祉施設において、利用者の就労の場としてパン製造を行っている事例は多数あるが、ベーグル製造をしている事例はない。ベーグルは小麦粉・砂糖・イースト・塩・水の5つの材料で作ることができ、作業工程はパン製造より僅かに複雑であるものの、類似していることから利用者の適性や能力に合わせて技術獲得への支援を行っていけば、ベーグル製造は可能であり、また、内容材料の種類を変えてもほぼ同じ工程で作れることから、利用者らが製造技術を獲得できればオリジナルの商品の開発にも繋がる。これらのことから、利用者が技術を身につけ主体的な自己の確立に寄与できるように支援していくことは有意義であることが示唆され、本研究では、ゼミ活動の一環として、石狩産小麦を用いた「いしかりベーグル」のレシピ譲渡とともに、利用者の製造技術獲得への支援をすることを目的とした。

3. 方法

(1) 調査対象

調査対象者は利用者Aさん(女子)、18歳、知的障害者(程度：中度～軽度)、自閉的傾向がある。家族構成は父・母・兄・姉である。Aさんは、平成25年3月に高等養護学校を卒業し、同年3月よりサムリブへの通所を開始した。

Aさんの障害に関しては、家族の意向により正確な症状は、確認できなかった。しかし、施設の生活支援員(以下、支援員)によると、日常生活の行動として、順番にこだわりがあり、少々変わるだけでも戸惑ってしまう。また、頭の中を整理してからでないと話せず、話し出すまでに時間がかかるという特徴がある。ただし、身支度など日常の身の回りのことは自分ででき、文章を書くことなども可能である。サムリブでの活動は、10:00よりミーティングが始まり、自らその日に行う作業を決定する。作業は午前・午後の2部制に分かれており、Aさんは卵磨きやピーズづくり等を行っている。

(2) 調査方法

ベーグルの製造・加工販売活動及び技術支援(以下活動)は平成25年4月～9月に計28回行った。ゼミ生12名が1回3～4名単位の輪番で活動を担当した。金曜日に藤女子大学の大量調理室において、ベーグル製造(図3)を行い、土曜日には、ベーグル製造に加えて、ラップ包装、販売するための成分表示や種類のシール貼り、販売をとれのさとで実施した。作業内容の決定はサムリブの1日のスケジュールと同様に、Aさんが自分の体調・気分等を考慮し決定できるようにした。1回の活動時間は、先行研究を参考とし3～5時間とした⁸⁾。毎回支援員が同行し、支援員と協議しながら活動を実施していった。

毎回の活動後、Aさんはチェックリストを用いて作業の自己評価を行い、自由記載では、うまくできたこと、難しかったこと、今後気を付けることなどを日誌に記録してもらった。

(3) 記録と分析・評価

障害者の労働能力の共通尺度は存在しない⁹⁾ため、製造工程に対して事例検討^{10,11)}を行い、チェックリストを用いた作業12項目に尺度を設定した。尺度を設定する際には、パン製造や調理の有識者10名を対象に、それぞれの工程の難易度を検討し、①生地を作る＝3点、②1次発酵＝4点、③生地を分割する＝5点、④丸める＝5点、⑤成型する＝4点、⑥2次発酵＝3点、

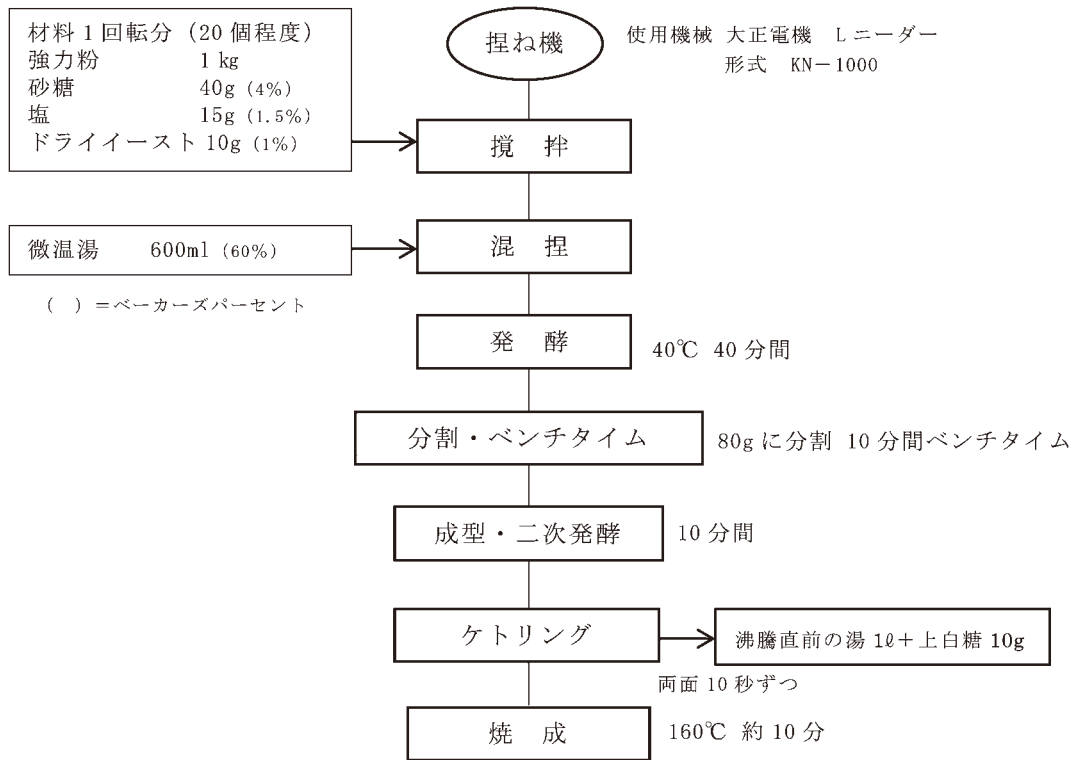


図3 ベーグル製造作業工程

⑦ケトリング＝4点、⑧焼く＝3点、⑨袋に詰める＝3点、⑩洗い物＝3点、⑪片づけ＝3点、⑫販売（会計は含まない）＝4点と設定した。12項目の合計点は44であり、毎回のAさんの作業実施難易度を示した。また、実施経験工程数を延べで積み上げ、その獲得経験数を示した。

毎回のAさんのチェックリストや日誌、担当者の記録、活動終了後のAさんおよび支援員のインタビューについて、先行研究¹²⁾を参考に①製造技術②コミュニ

ケーションに分けてまとめた。

4. 結果及び考察

Aさんは4～9月の活動の内、17回参加した。そのうち、事前練習や、体調不良による欠席のため、チェックリストの記入は13回でありその記録を分析の対象とした。

実施した工程のチェックリストを表1に、担当者に

表1 実施した工程のチェックリスト

工程	回数 点数	回												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
①生地を作る	3													
②1次発酵する	4													
③生地を分割する	5													
④丸める	5													
⑤成型する	4													
⑥2次発酵する	3													
⑦ケトリング	4													
⑧焼く	3													
⑨袋に詰める	3													
⑩洗い物	3													
⑪片づけ	3													
⑫販売	4													

■ 実施 □ 未実施

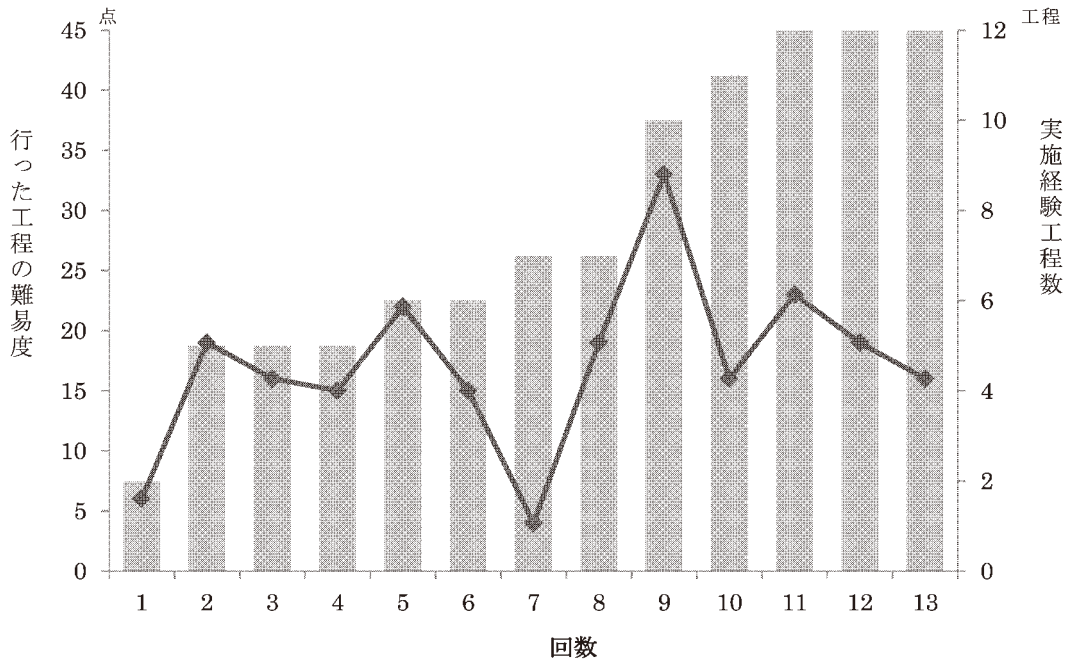


図4 Aさんの製造技術獲得の推移

よるAさんの行動記録を表2に示した。また、Aさんの自由記載とそれに対する担当者の考察を表3に示した。

図4は、Aさんの製造技術獲得の推移を示したものである。チェックリストの記録を評価するため、Aさんが行った工程の難易度を示した。このグラフは、横軸に回数、折れ線グラフにその日の難易度、棒グラフに実施経験工程数を示した。

難易度は、当日行った工程数に相関するものである。1回目は、全体の作業工程を見学し、⑩洗い物、⑪片づけの2工程を実施した。2～4回は4～5工程を実施し、5回目には、店頭に並べる最後の仕上げである⑨袋詰め（シールの貼付含む）を実施した。7回目は、⑫販売に集中させたため、難易度は低値を示した。最高値は9回目であり、多くの工程を実施できた。難易度が不定である理由として、Aさんの体調や情緒の変化により、当日行う作業を積極的に決定できなかったことや、表3・回数8の記述にあるように、担当者によってAさんに対する支援内容に差異が生じるなど作業環境の変動があった。作業環境の変化は少ないほうが有効であり¹³⁾、環境の整備が肝要であることが明らかであった。一方で、難易度が高い④丸める、⑤成型するは、ほぼ毎回実施しており、これらの工程はベーグル製造において積極的に実施したい作業であることが示唆された。また、実施経験工程数は、回数を重ねるごとに増加し、9回目は9工程を実施し、11回目で全ての工程を経験した。

図5、6は、活動終了後のAさんの感想、支援員のインタビュー内容である。

支援員へのインタビューから、Aさんの変化が2つ挙げられた。1つ目は、自己表現の変化である。平成25年4月からサムリブに通所しているが、それまでは高等養護学校に通っていた。そこでは「先生に指示されたことをただやる」ということがほとんどであったため、今まで自分の意志で動くことは少なく、自分で決めることが苦手であった。

担当者らは、Aさんに対してできるかできないか、どちらがやりたいか等、自分で選択できるように問いかけながら活動していた。これにより、Aさんは自分ができること、やりたいことの意味決定や意志表示ができたことを自己認識した。2つ目は、Aさんに自信がついたことである。ベーグル製造において、サムリブでの自分の役割を見出した。また、自分一人でなく集団の中で何かを作り上げ、協力し合うことの大切さを知り、その中で自分の役割をみつけたということがAさんの自信に繋がったようである。さらに、Aさんの感想と、支援員のインタビューのどちらにも、Aさんが「いらっしやいませ」とお客様に言うことが出来たことが挙げられており、自己評価が客観的評価と一致していることがわかった。

5. まとめ

本研究では、石狩産小麦を用いた「いしかりベーグル」のレシピ譲渡とともに、福祉事業所利用者の製造

表 2 担当者による A さんの行動記録

回	考 察
1	とれのさとの加工場での活動。初めてなので加工場の見学をした。A さんが行ったのは洗い物、片付けのみで、あとは販売場に立って見学した。
2	④丸める、⑤成型する、を初めて行った。⑦ケトリングは裏面表面をそれぞれ 10 秒ずつ行うことを指導すると、きちんと数えていた。鍋が高くて熱そうだったため、底の浅い鍋に替えると、「ありがとうございます」とお礼を言った。
3	前回と同様の作業をした。前回の反省を踏まえ、ベーグルの袋に貼るシールをはがし易く準備しておく、作業しやすそうであった。④丸める、⑤成型する、の 2 点を重点的に作業していたが、形がきれいでないと納得できない様子で、時間はかかってはいるもののきれいに成型していた。ケトリングの時間を覚えているか訊ねると、10 秒と正しく記憶していた。自分の作業が終了すると販売の様子を見学していた。
4	④丸める、⑤成型する、⑩洗い物、⑪片づけ、をした。その他にも⑧焼く作業の際にはオーブンを開ける作業を手伝っていた。共同作業が嬉しそうなお様子であった。
5	これまでの活動で最も多い④丸める、⑤成型する、⑦ケトリング、⑨袋に詰める、⑩洗い物、⑪片づけ、の 6 項目の作業を行った。また、期間限定ベーグルのりんごジャムを包む、生地をめん棒で伸ばす作業を行ったが難しいそうであった。④丸める、⑤成型する、はスピードは速くはないがとても慣れてきた。⑨袋に詰めるはベーグルをラップで包む作業であるが、注意点を担当者から聞き、それに習って作業していた。
6	④丸める、⑤成型するの作業のスピードが上がっていた。ベーグルをこねるときのマット、さらしを洗濯機で洗うのだが、A さんは洗濯機のゴミをととてもきれいにしておき、支援員によると、A さんのこだわりであるとのことだった。また、ベーグルに焼印を押すこともした。初めてだったので少しこわがっていたが、最後まで頑張って作業をしていた。
7	⑫販売の他にシール貼りをしたのだが、シールの貼り方を細部まで気にしていた。販売場所に立ち、初めて実際に販売をした。支援員と相談をし、販売をいきなり行うことは難しいと判断し、まずは「いらっしゃいませ」と声を出し、お客様に頼まれた種類と個数を A さんに伝え、それを袋に詰めるという形をとった。A さんはとても緊張している様子であったが、後半になると作業のスピードが上がっていた。
8	期間限定ベーグルのりんごジャム作成の切さいを行った。切さいは初めてではなかったが、包丁の使い方を指導し、注意点も伝えるとその通りに使用していた。
9	全活動で最も多い 9 項目の工程を実施した。初めて二次発酵を行った。また、今回も販売に立ち、第 7 回目と同じように実施した。緊張しながらも前回のことを思い出しながら慎重に動いている様子であった。
10	チェックリストにない作業であるが、材料の計量をしてみたいか聞いたところ、うなずいたので、砂糖、塩、イーストの計量をさせてみた。初めての工程であったため、とても慎重に実施しており、計り始めと終わりに必ず私たちに確認をとっていた。また、④丸める、⑤成型する、はスピードもかなり上がり、確実にきれいに成型できるようになった。
11	10 回目で A さんが計量した材料を、本人がこね機に入れて生地を作った。また、初めて分割を行った。分割は「1 つの生地から 20 個のベーグルができる」ので「生地の全体量を計って 20 で割る」ことを伝えたが、なかなか理解できない様子であった。
12	期間限定ベーグルのイチゴジャムを生地で包む作業をした。2 人が組になり生地をめん棒で伸ばす、伸ばした生地にジャムを包み、丸く成型するというように行った。A さんは後者を担当したが、ジャムが出てこないように生地をつなげる作業がとても丁寧で正確であった。
13	期間限定ベーグルであるいちごジャム作成の切さい、切さい後のいちごを煮るという火を使う作業にも挑戦した。いちごの切さいは初めてだと言って緊張していたが、正しく切さいをしていた。

技術獲得へ支援をすることを目的とした。その結果は、次のようにまとめられる。

(1) 製造技術の獲得

作業工程は 12 項目あり、実施経験工程数は、回数を重ねるごとに増加していった。なかでも、④丸める、⑤成型する、の工程は、ほぼ毎回実施したこともあり、作業速度、正確性のスキルが向上した。このことから積極的に選別した作業は、作業内容の把握が早く、早期の技術獲得につながるということがわかった。なお、障が

い者が自己評価を行う際、一般的な行動基準より具体的な基準にしたほうが、その行動は改善される¹⁴⁾ことから、自己評価を行っていたチェックリストは項目をより具体的なものにすると改善が必要であることがわかった。なお A さんは活動終了後のひと月後に、ベーグル製造のフローチャートに従い確認した結果、全工程を理解、記憶していた。

(2) コミュニケーション

当初、支援員が傍にいないと落ち着かない様子だった

表3 Aさんの活動についての自由記載（抜粋）・それに対する担当者の考察

回数	自由記載	自由記載に対する考察
1	シールを貼りました。シールがとりにくかったです。でも頑張りました。初めて販売をやりました。きんちょうたり足が痛くなりました。お姉さん達と一緒にページパンを売りました。良かったです。	記述に『緊張した』とあるように、こちらから見ていても初めはととても緊張している様子であった。しかし、私たちの指導をしっかりと聞き一つ一つの作業を丁寧に行っていた。
2	今日はおもページパン作りがやりずらかったです。成形をしました。お姉さん達に「きれいだね」とほめられました。嬉しかったです。明日も頑張ります。よろしくお願います。	2回目にして、上手に成型をしていたため、Aさんを褒めるととても嬉しそうにしていた。
3	シールを貼りました。今日はお姉さん達が3人位しかいなくて人数が少なかつたけどみんなと一緒に頑張りました。成形をする時に、パンがかんそうしていてやりずらかったとあり、生地が乾燥している	『成型をするときに、パンがかんそうしていてやりずらかった』とあり、生地が乾燥している
4	今日はコロコロ丸めるのが上手にできませんでした。成形もやりました。洗い物を頑張りました。明日もお姉さん達と一緒に頑張ります。よろしくお願います。	丸める作業がうまくいったと喜んでいました。最後の挨拶では恥ずかしがりながらも「さよなら、ありがとうございました。」と挨拶していた。
5	ケトルリングを頑張りました。洗い物を頑張りました。袋に詰めるのをやりました。シールを貼りました。丸めるのを頑張りました。成形するのを頑張りました。今日は初めて生地をのばしました。頑張りました。	今までの活動でも多い作業工程をこなしたため、少し疲れている様子であったが、初めて行う作業にも支援員に促されることができた。まだ、支援員の導きが必要であった。
6	今日はおも大変でした。でも最後まで皆で一生懸命頑張りました。今日は初めて、パンに「F」のマークを押しました。少し怖かったです。明日もよろしくお願います。頑張ります。	本文には書かれていないが、初めてAさん自ら「洗ったものをどこにしまえば良いか」を私たちに尋ね、行動に移すことができた。支援員は「初めてのことで」と言っており、私たちに慣れさせていることがわかった。
7	今日は3人のお姉さんとやりました。大変だったけど皆と一緒に最後まで頑張りました。シール貼りをやりました。販売をやったときに、おばさんが来て最初はアレンを「2つ」と言いました。でもアレンを1つ戻して豆を1つちょうたいと言いまいたがやがばり、もう1つたして、言われて頭の中がぐちゃぐちゃになって私は混乱してしまい、分からなくなりました。おばさんに渡そうとしたら、「こっちは急いでるんだわっ」と言いながら怒っていきましました。とてもびびりしてすご怖かったです。	お客様とのトラブルがあり、Aさんは、販売に恐怖心を抱いてしまったのだが、「様々な人がいるのだよ、大丈夫だよ」と長い時間、支援員に指導されればを離れられずにいた。しかし「こわい」と言いながらも再び販売に挑戦する姿が見られた。作業工程については伝えることができて、イレギュラームに対応する対処については、理解不足である。自己判断せず支援員と相談しながら進めていきたい。
8	今日は、お姉さんたち4人とやりました。今日はあまり指示を出してくれなかつたりして、「どうしたのかな?」「大丈夫なのかな?」「明日はどうなるのかな?」と心配になりました。	自分の感情を表現する記載があった。私たちが日誌の内容を尋ねたところ、Aさん自身がその思いを話した。このことからコミュニケーション力が高まっていることが確認できた。また、『今日はあまり指示を出してくれなかつたりして、「どうしたのかな?」「大丈夫なのかな?」「明日はどうなるのかな?」と心配になりました。』とあるように、何をどのようにするのかをききちゃんと伝えないと、戸惑いながら作業してしまうことがあった。これは、Aさんの特性であり、先々に指示をしていかないとAさんが自ら行動することは困難であることがわかったため、「次はこれをやろう」とAさんに対する声掛けをすることが大切であることがわかった。
10	今日は明日の分の砂糖(80g)塩(15g)イースト(10g)などの調味料を計量しました。とっても忙しくて大変ですごく疲れてしまいました。お姉さんたちと一緒に一生懸命あきらめなくて頑張れたので良かったです。	ページの製造量が多かつたため、私達もAさんも疲れていた。しかし、『最後までお姉さんたちと一緒に一生懸命あきらめなくて頑張れたのでよかったです。』とあった。また10回目では初めて行った作業があり、『少し難しかったけど、これからたくさん練習してきくと覚えて出来るようになるよになれたらいいなあと思います。』とあった。前半よりも前向きに物事を考えている様子であった。
11	今日は初めて分割をやりました。少し難しかったです。今日は前の時より少し良かったのかなあと思いましたがちょっと進むのが遅かったかと思えました。	
12	やっぱパンを作る時にしても何かをするときでも勝ち負けは何も関係なくただ必要なことは皆と一緒に協力して手早くいねいにしっかりと丸い形できれいに売って笑顔で接客することが大切だと思えました。	作業中に、「ほかに何がやりたい?」などと問うと自分で考えて選択する様子が見られた。支援員は「今まで自分で選択するということをしてこなかったから、すごい進歩だ」と言っていた。また、乗しように作業をしており、環境への慣れや人間関係の構築がなされてきたようである。
13	初めていちごを切ってみました。上手に出来てよかったです。	『初めていちごを切ってみました。上手に出来てよかったです。』とあり、包丁をもつのは初めてではなかったが、いちごを切るのは初めてだったため、Aさんは「上手にできた」ととても嬉しそうに様子であった。

私は比較的あまりお客さんや人前に出たり、人にでも言葉で自分の思っていること、気持ちを伝えたりお話しすることがとても苦手です。でもベーグルパンを「とれのさと」でお姉さん方と一緒に販売した時には私は、お客さんが来た時にお姉さん方は「いらっしゃいませ」とあいさつしていたりベーグルパンの材料や食べ方などを説明しているのに私はなかなか恥ずかしくてとても緊張してビクビクしていて「いらっしゃいませ」とベーグルパンの説明をすることができなかつたけど、少しでもお姉さんのことを見習って、サムリブで「卵」を売っているのを買いに来たお客さんに少しずつですがゆっくりと徐々に「いらっしゃいませ」と言うだけですが出来るようになってきたなあ、成長したなあと思いました。

図 5 Aさんによる活動を終えての感想

Aは、自分で何かを決めることがとても苦手でした。春まで通っていた高等養護学校では、先生に指示されたことをただやるとか、そういうことがほとんどだったと思うんです。なので、施設でも自分で1日のスケジュールを決めるのには時間がかかりました。でも、藤女子大学さんとベーグル販売活動をするようになって、お姉さんたち（学生）が「Aちゃん、どっちやる？」と聞いてくれていたので、Aは自分で考えて、何がやりたいか、できるか決められるようになりました。また、このような経験はもちろん今までしたこともなく、みんなで何かを作り上げることや、協力し合うことをあまりしてこなかったと思います。ベーグル製造において、サムリブでの自分の役割のようなものを見つけたことによって、Aにはかなり自信がついたのだと思います。活動終了後のサムリブでの生活でも変化が見られました。サムリブでのイコロランの販売で、Aは「いらっしゃいませ」とお客様を迎え、1人に対処することが出来たのですよ。自分1人で接客出来たことをとても喜んでいました。また、自分で美容室を調べ、電話をかけて料金を聞くということもあり、私も驚いています。

図 6 支援員へのインタビュー内容

たり、うつむいていることが多く、指示を出しても支援員に促されないと実行できず、自信がない様子であったが、回を重ねるごとに、環境に順応していき、担当者の顔を見て話を聞く、指示を出すと頷くなど、信頼関係の構築が見られ、支援員の姿が見えないところでも担当者らと積極的に活動ができており、前向きな気持ちや言語行動が増えていった。また、接客に関しても積極的に行うなど、Aさんの精神的な成長がみられたことや、コミュニケーションスキルが高まったことが示唆された。

以上のことより、Aさんがベーグルの製造技術を獲得することでできたことは明らかである。さらに、石狩で生活する障がい者に石狩産小麦「春よ恋」を用いたベーグルの製造技術獲得支援・レシピ譲渡を行ったことで地産地消活動の拡大に貢献することができた。サムリブでは加工施設を設け、平成26年4月からベーグルの加工販売が開始されることが決定している。

今後の課題として、対象者の特性・能力や環境をより深く理解し、適正な支援方法を確立することである。これらを検討しより効果的な技術獲得支援を行ってきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、施設利用者さまとその調査にご理解とご協力をいただきました指定障害福祉サービス事業所サムリブ高岡の藤岡登施設長をはじめ施設職員の方々に感謝申し上げます。また、JA いしかり地物市場とれのさとの加藤浩光氏、橋本健太氏をはじめとする従業員の方々、その他ご協力いただきました沢山の方々に厚く御礼申し上げます。

なお、本研究は藤女子大学 QOL 研究会研究助成金によって行われましたことを付記いたします。

注

- ※ 1 障害と障がいの表記について（北海道の場合）。平成18.2.15より、保健福祉部局及び各支庁保健福祉事務所において試行（「障害」→「障がい」表記）。
障害：法令や条例等に基づく制度や施設名等の名称・組織名・事業等の固有名詞・医学用語など専門用語として漢字が適当な場合に用いられる。
障がい：「障害」という言葉が単語あるいは熟語として用いられ、前後の文脈から人や人の状況を表す場合に用いられる。
- ※ 2 ノーザン・ノーサン：平成13年営農開始、石狩市八幡町高岡に所在する。事業主は岩城国男氏。イコロランを使用したカタラーナ、シフォンケーキ、ロールケーキの販売が2013年夏から開始された。作物の生産のみならず、流通、生産現場の抱える問題点など様々な情報を発信している。（イコロとは、アイヌ語で宝物という意味を持つ）
- ※ 3 はるきちオーガニックファーム：平成16年営農開始、石狩市花畔に所在する。事業主は小林卓也氏。農薬を使用しない有機農業を行っている。また野外ロックフェスティバルなどのイベントに出店し、石狩市における農産物販促の貢献度は高い。

参考文献

- 1) 石狩市市長所信表明（2011.6.23）：
(<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/citizen/government/kikaku05003.html>). 2013.4.12 取得

- 2) 石狩市企画経済部農林水産課：第3期石狩市農業振興計画（H24～H28）、北海道石狩市、(2012)
- 3) 石狩市保健福祉部：石狩市障がい者計画、北海道石狩市、(2005)
- 4) 地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律について (http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/sougoushien/dl/sougoushien-06.pdf)、2013.4.12 取得
- 5) 藤岡登（施設長）：対面調査 サムリブ高岡、(2013.4.19)
- 6) サムリブ HP <http://www12.plala.or.jp/nposamliv/>、2013.4.5 取得
- 7) 櫻谷朋香 他：地域に根ざしたコミュニケーション&マーケティング～石狩産小麦を用いた商品開発と加工販売～、藤女子大学平成24年度卒業論文、(2013)
- 8) 大沢史伸：知的障害者の雇用システムの構築と実践、株式会社みらい、(2010)
- 9) 社会福祉法人全国社会福祉協議会：障害のある人々の「働く力と働く支援量」尺度のあり方に関する基本的方向性、(2009)
- 10) 竹内めぐみ 他：自閉症児の母親の主体的な取り組みを促すチェックリストを用いた支援、特殊教育学研究 40(4)411-418、(2002)
- 11) 三原博光：行動変容アプローチによる問題解決実践事例、学苑社、(2005)
- 12) 清水浩：自閉症生徒の自己理解を深める支援に関する研究Ⅱ、宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要第36号、(2013)
- 13) 社団法人日本社会福祉士会：ソーシャルワーク視点に基づく就労支援実践ハンドブック、中央法規出版、(2010)
- 14) 河本肇：幼児の自己評価と行動基準の設定が歯磨き行動に及ぼす結果、教育心理学研究 33(4)307-314、(1985)

Working support for the users of welfare center utilizing local production for local consumption in Ishikari City

Mariko MURATA

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University)

Ayako NEMOTO

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University)

Moe AOKI

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University)

Mako KOBAYASHI

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University)

Kazumi KIKUCHI

(Department of Food Science and Human Nutrition, Faculty of Human Life Science, Fuji Women's University)

Key words: local production for local consumption, working support, ISHIKARI bagel